37

株式会社 源邑光（みなもとのむらみつ）北野刃物製作所

110年の伝統と高付加価値加工で内装工事用道具を展開

新型の精密研削盤でヘラの加工を効率化

ヘラの刃先の特殊加工も容易に

内装工事用道具を一括して提供

事業内容

創業1世紀を超え、今に伝わる「源邑光」ブランド

明治39年に源邑光として誕生した創業110年を超える老舗。ゴムの樹液の採取やロープの切断などのための特殊刃物の製造からスタートした。昭和25年に現在の源邑光（みなもとのむらみつ）北野刃物製作所となり、プロ用の肉切り包丁などを手がけた。

ヘラを中心に内装工事用の道具を展開

昭和40年から刃物製造技術を応用し、建築現場で使われるヘラやコテの製造を始めた。壁紙貼りなどの内装工事用のための道具が中心。当初は壁紙を貼る前のパテの塗布用のヘラや貼り終えた余りの壁紙を切り取るためのヘラが中心だったが、ユーザーの要望に応えるうち、継ぎ目をならすためのローラーや空気抜き用の刷毛（はけ）も手がけるようになった。北野朋宏代表取締役社長は「内装工事関連の道具なら一通りそろう」と胸を張る。

より多様な要望に応えるため、平成24年に中国工場も設置。価格を優先するユーザーには中国製を供給し、使い心地や作業の精度を求める場合には日本製を提供している。

補助事業

日本の技術が支える ヘラのしなりという付加価値

競合する大手メーカーの製品が中国製である中、同社の本社工場で製造される精度のヘラは使い心地を重視する工事現場の職人から評価を受けている。使いやすいパテ用のヘラに必要なしなりを生み出しているのは、経験と勘に基づいた手作業による平面研削盤での加工。ユーザーそれぞれの好みの固さに仕上げている。

新型の精密研削盤で高精度・高効率製造

ただ、熟練の技による加工はできる技術者が限られている。そのため、平成27年度の「ものづくり補助金」で黒田精工（株）の精密研削盤を導入した。新型の精密研削盤は精度が高いうえに一度に加工できる刃の枚数が多く、操作性も良好で消費電力も低く、従来の研削盤に比べて多くのメリットがある。1枚あたりの製造コストが削減でき、高付加価値の国内製造のヘラが従来より提供しやすくなった。

具体的成果

新型加工機導入で効率的な生産と若手の育成が実現

1㎛の精度で加工できる精密研削加工機の導入により、主力のヘラで従来以上の高精度の加工ができるようになった。最大4枚を並べてセットでき、1時間に8枚の刃の研削加工が可能な能力で効率的に生産する。

さらに、作業の一部がデジタル化となり、材料をセットして機械をスタートするまでの作業が単純化され、効率的な研磨ができるようになった。これまで熟練者の経験と勘に頼ってきた研削作業が誰でも安定した品質でできるようになり、若手の製造担当者の育成ができる。将来の受注増加に向けた体制が整った。

高付加価値の加工を内製化し、製品展開しやすく

作業効率向上に加え、「従来は外注していた刃先を斜めに削る加工を新型装置によって内製化できた」と北野社長は喜ぶ。これまで限られた製品にしか使えなかった加工方法が容易に使えるようになり、比較的手頃な価格の高付加価値製品の製造が可能になった。

刃先を斜めにしたヘラの新製品は大ヒットとなり、年間の売り上げが1.5倍ペースと同社の成長を支えている。この斜め加工を応用し、特注品の受注もしやすくなった。

今後の戦略

伝統の名前で自社ブランド展開へ

補助金で新規導入した精密研削盤の高精度と時間短縮で、高付加価値製品が供給しやすくなり競争力が高まる。従来、OEM（相手先ブランド生産）の製造を行ってきたが、斜め削りの刃先を生かした自社ブランド製品を平成29年11月に発売予定。年間5,000本以上の販売を見込む。創業時から残る「源邑光」の名前を前面に打ち出し、長年蓄積した技術を印象づける。

将来は海外にも視野を向ける。日本の高付加価値のヘラを使いたい海外の職人をターゲットに、中国工場を窓口として受注をする構想を練っている。

加工の付加価値で外部の需要も取り込む

北野社長は今後さらに高精度のヘラを短納期で製造する需要が高まると考えており、OEM生産の受注拡大も図る。これまで以上に内装用工具メーカーやホームセンターなどへ積極的に売り込んでいく。

精密研削盤の加工はさまざまな応用ができる。「将来は金型製作の外注も引き受けられるのではないか」と北野社長は考えている。新製品の大ヒットで当面はヘラ製造に集中する方針だが、生産状況に応じて業務を展開していく方針だ。

株式会社 源邑光（みなもとのむらみつ）北野刃物製作所

代表取締役社長　北野 朋宏

〒577-0848　大阪府東大阪市岸田堂西2－8－12

TEL. 06-6729-5656　FAX. 06-6729-5667

資本金／10,000千円　従業員／10名

主な取引先／内装工事用道具の商社・外装工事用道具の商社、小売店など

主な保有設備／平面研磨機、プレス機、ボール盤、ルーター、パネルソー、昇降盤、塗装設備、オリジナル成型機2台など

主力製品／外装・内装工事用のヘラやローラー、刷毛などの道具

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　量産OK　試作OK　連携力

時代に応じた、人に求められる製品作りを続ける

代表取締役社長 北野 朋宏

110年を超える歴史の中で、刃物中心の事業展開から建築現場で使用されるヘラなどの製造が中心になりました。現在は中国と日本の両方で製造を行い、顧客の求めに応じています。

http://kitanohamono.co.jp/

取材を終えて

伝統が支える内装工具

歴史を感じさせる「源邑光」の文字が入った新製品のヘラは、源邑光北野刃物製作所の積み重ねた歴史の上に完成した重みを感じさせる。使いやすさを追求した品質と、日本刀の銘を思わせるブランド名の取り合わせは、道具を選び抜きたい壁紙職人の心をしっかりとつかみそうだ。ローラーや刷毛などヘラ以外の道具も取りそろえるなど、ユーザーがいかに作業をしやすいかに徹底して主眼をおき、作業現場を支えている。